

1. 教育・保育理念

愛がいっぱい 笑顔あふれるこども園

2. 教育・保育基本方針

- ・常に利用者の立場に立ってニーズに応え、サービスの向上に努めます
- ・一人一人の人格を尊重し、互いの信頼関係をよりよく構築します
- ・地域・自然・人とのかかわりの中で豊かな人間性の育成をめざします

3. 重点目標

- ・いきいきとあそび ともに育ちあう子ども

4. 研究テーマ

～やってみたい・おもしろそうと感じる 教育・保育をめざして～

(例)



3	①安定感をもって環境に関わり、自己を十分に発揮して遊びや生活を楽しむ。 ②保育教諭等との温かい関わり合いのなかで人に対する信頼感を持ち、友達とともに過ごす楽しさや喜びを感じられるようになる。
4	①園児の発想や興味をたいせつにするとともに、様々なあそびの面白さに触れながら、いろいろな経験を通して園児自らが積極的・主体的に 選択して遊べる環境づくりをする。 ②保育教諭等との安心できる安定した関係の下で、園児が自己肯定感や人に対する基本的信頼感をもてるようにするとともに人と関わり合いながら生きていく力の基盤づくりをする。

◎項目及び項目4の評価結果の表示方法

A	十分達成されている	B	達成されている
C	取り組まれているが、成果は十分でない	D	取組が不十分である

5. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
身近な環境にある様々なものに対して、興味や関心をもって積極的に関わることができるような援助や環境の工夫をしていく。	B	子どもたちの興味や関心を大切に、主体的に遊べる環境づくりに努めている。季節の自然物や行事を取り入れたり、手作り玩具や視覚教材を活用したりするなど、工夫を重ねてきた。しかし、遊びの準備や環境構成が十分に行き届かない場面もあり、課題が残る。今後子どもたちが意欲的に遊びに参加し、豊かな経験ができるよう、保育の質を高めていきたいと考えている。
園児が心と体の調和をとりながら、健康で安定した園生活を送ることができるように、愛情豊かで温かい関わりを通して園児と信頼関係を築いていく。	B	園全体で愛着形成の大切さを共有し、職員研修などを通じて温かい関わりを意識している。子どもたちの気持ちを受け止め、信頼関係を築くことを大切にしながら、一人ひとりに寄り添う保育を実践している。ただし、職員によって対応に差があることや、特に配慮が必要な子への関わり方に課題も残るため、今後も学びを深め、より安定した関わりができるよう努めていきたい。
友達との関わりをなかで、様々な感情体験を味わい、互いの良さに気付いたり、一緒に生活したり遊んだりすることの楽しさや喜びを感じられるようにしていく。	B	保育教諭が仲立ちしながら、子どもたちが感情を言葉で伝えられるよう支援している。自己肯定感を高めるため、園児を認める声かけを意識し、個々の安定を継続的に図っている。楽しく遊ぶ際は見守り、必要に応じて声かけを行う。トラブル時は双方の話を聞き、納得できるよう支援する。集団での活動を通じて協力の楽しさを伝え、友だちの良さに気付けるよう促し、関わる楽しさを育てている。

6. 総合的な評価結果の概要

結果	理由
B	安心できる人と環境のもと、安全で意欲的に遊び込める場を整え、園児一人ひとりの行動や思いを丁寧に見取りながら、意欲的に生活や遊びに取り組めるよう努めている。 近年、家庭環境の多様化や子育てを取り巻く状況の変化により、支援を求められる家庭が増える中で、保育教諭は園児や保護者との信頼関係を大切に、愛着をもって関わることを心がけてきた。年度当初は、職員配置を整え、支援が必要な園児やクラスに適切な対応ができる体制を構築していたが、出産や体調不良などにより、現在は職員配置が厳しい状況となっている。評価にもあるように、環境整備や準備が十分に行き届かないといった課題が生じているため、行事の内容や職員間の話し合いの進め方、時間の使い方を見直す必要がある。次年度に向けて職員同士で意見を出し合い、改善につなげていきたい。 また、園では家庭支援・子育て支援を教育・保育の基盤として捉え、外部研修や園内研修を通じて学びを深めながら実践を重ねている。しかし、保育教諭一人ひとりの個性や価値観、経験の違いがあるため、すべての職員が同じレベルで園児や保護者と関わることは容易ではない。そのため、より良い教育・保育を実現するために、職員同士が互いの優れた取り組みや思いを認め合い、共有していくことが重要である。 園児一人ひとりが安心して成長できる場となるよう、施設長をはじめ職員一丸となって引き続き努力していく。

7. 学校関係者評価

園内で評価をすれば、どうしても達成できなかった事や、至らなかった点などに目が行きがちだと思います。しかし保護者の代表として大正こども園を見た場合、本当に「うちの子は大正こども園で良かったな」とつくづく思います。うちは2人姉弟で通算7年間お世話になりました。姉は「〇〇先生は怒ったら怖いけど大好き！」や、弟は「園で飼育してるウサギの飼育当番まだかな？」と口にしていました。それを聞いて親の立場として感じる事は、怒られても好きでいられるのは、「ちゃんと何がダメだったのかを教わったんだな。嫌われない怒り方を子ども達にできるなんて見習いたい！」と思えるからです。昨年、殊に怒る事や叱る事に関しては非常にデリケートな問題となってきました。職員の皆様方も怒る事、叱る事へのためらいもあると思います。身を守るだけなら怒らない方が得策かもしれません。ただ様々な研修などを通して職員の方々への意識づけがしっかりとなされているからこそ、子どもなりに「ここが良くなかったから怒られたんだな」と納得出来て「先生が好き！」に繋がっている事と感じます。またそれらが出来る職員さんに偏りが出してしまう事も、ごく自然な事です。早く取り入れられる人も居れば、時間が掛かる人も居て当然です。園として「職員が仲立ちをしながら自己肯定感を大切にしつつ支援する」という軸がある限り、徐々に浸透していく事と感じています。また「菜園活動」「食育」「動物とのふれあい」などを大切にされており、年を追う毎に完成度、質が高まっているなど子どもを通して感じます。大正こども園が掲げておられる「基本方針」に向かって職員皆様の心身の健康を第一に、今後もご活躍して頂ければと切に願っております。

学校関係者評価者	保護者代表
----------	-------